

# Fibronectin mediates activation of stromal fibroblasts by SPARC in endometrial cancer cells

吉田, 祥子

<https://hdl.handle.net/2324/4784449>

---

出版情報 : 九州大学, 2021, 博士 (医学), 課程博士  
バージョン :

権利関係 : (c) The Author(s). 2021 Open Access This article is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.

(別紙様式2)

氏名	吉田 祥子
論文名	Fibronectin mediates activation of stromal fibroblasts by SPARC in endometrial cancer cells
論文調査委員	主査 九州大学 教授 馬場 英司 副査 九州大学 教授 江藤 正俊 副査 九州大学 教授 小田 義直

### 論文審査の結果の要旨

Matricellular glycoproteinのSecreted protein acidic and rich in cysteine (SPARC)は細胞と細胞外マトリックスの相互作用を媒介する分泌タンパク質の一つである。さまざまな癌腫の間質組織および癌細胞で高いSPARC発現が認められているが、癌細胞におけるSPARCの機能は議論となる場所であり、腫瘍周囲の間質細胞への影響は未だ解明されていない。そこで、申請者らはin vitroでの共培養系を用いて、子宮内膜癌細胞のSPARC発現が周囲の間質線維芽細胞に及ぼす影響について検討した。その結果、子宮内膜癌細胞におけるSPARC発現はAKTリン酸化と上皮間葉転換を誘導した。また、SPARC発現細胞ではファイブロネクチンの発現が増強した。正常線維芽細胞とSPARCを強制発現させた子宮内膜癌細胞の共培養では、正常線維芽細胞が活性化された。子宮内膜癌細胞から分泌されるSPARCの免疫除去では線維芽細胞の活性化に影響を及ぼさなかったが、ファイブロネクチンの発現を同時に抑制すると線維芽細胞は活性化されなかった。以上から、SPARCを発現した子宮内膜癌細胞から豊富に分泌されるファイブロネクチンの存在下でのみ、SPARCが線維芽細胞を活性化させることを示した。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。